

富津市創生会議 会議録（要旨）

1 会議の名称	第4回「富津市創生会議」
2 開催日時	平成27年10月14日（水） 午後2時～午後5時45分
3 開催場所	富津市役所5階 503・504会議室
4 審議等事項	1 富津市人口ビジョン2040素案追加資料について 2 富津市外居住者アンケート報告書について 3 転出者アンケート中間とりまとめ 4 富津市版総合戦略の基本目標案、基本的な方向案について
5 出席者名	富津市創生会議委員（13名） 浅野 隆、稲村 重夫、岩沢 宏幸、櫛田 直也、小泉 敏、 鈴木 裕士、滝田 一馬、武次 治幸、中澤 道男、西田 美和 子、早見 秀一、平野 都、森田 泰彰 事務局 副市長 高橋 恭市、総務部長 小泉 義行、 総務部参事 池本 幸司、企画課長 重城 祐、 企画課企画係長 中山 淳子、企画課主任主事 國吉 功二 企画課主任主事 赤井 聖、企画課主事 牧野 圭吾 企画課兼務職員 高橋 亮介、飯田 義洋、後藤 寿大 一般社団法人構想日本 伊藤 伸、原田 将大
6 公開又は非公開の別	公開・一部公開・非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	4人（定員 20人）
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録（発言の内容）	別紙のとおり

第4回「富津市創生会議」会議録

発言者	発言内容
事務局	<p>1 開会</p> <p>資料確認</p> <p>会議録署名人の指名</p> <p>第4回会議録の署名人は下記のとおり</p> <p>滝田委員 中澤委員</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 富津市人口ビジョン 2040 素案追加資料について</p> <p>(資料1の説明)</p> <p>質疑等なし</p>
事務局	<p>(2) 富津市外居住者アンケート報告書について</p> <p>(資料2の説明)</p> <p>質疑等なし</p>
中澤委員	<p>(3) 転出者アンケート中間とりまとめ</p> <p>(資料3の説明)</p> <p>若年層の転出理由について、進学の場合で富津を離れる者が多いと感じるが、市としてどう認識しているか。</p>
事務局	<p>学校の都合で住民票を異動させるのかどうかだが、扶養関係</p>

	<p>から考えると、実際に住民票を異動させるのは、就職の際が多いのではと考えおり、実の異動とは若干異なるのではと捉えている。</p> <p>(4) 富津市版総合戦略の基本目標案、基本的な方向案について</p>
事務局	(資料4、資料6、資料7の説明)
構想日本	(資料5の説明)
会長	<p>まず初めに、資料4 富津市総合戦略（たたき台）に事務局にて◎を記した基本的な方向案を中心に議論したいが、何か意見はあるか。</p>
櫛田委員	<p>◎を記した基本的な方向案を中心に議論を進めるのは良いと思う。</p> <p>具体的には、「出会いの場を創出し、結婚の希望をかなえる」とあるが、出会いの場があっても結婚できない人はおり、結婚したいと思える男性・女性を作ることを婚活事業者は最大のテーマとしている。</p> <p>基本的な方向案を検討する上で、掘り下げた議論ができるのであれば、お示しの案が良いと思う。</p>
浅野委員	<p>市民アンケートの結果を踏まえて優先順位が考慮されていると思うので、お示しの案が良いと思う。</p>
岩沢副会長	<p>富津市の強みである農業・漁業などは、「地場産業の起業促進」に含まれるのか。</p>

事務局	<p>また、「住環境の整備」とあるが、結婚・就職を契機に転出が伴う。スーパーや病院の整備なども必要であると思われるが、どのカテゴリに属するのか。</p> <p>農林水産業・加工業を含めて、「地場産業の起業促進」、「6次産業化の促進」に属すると思う。</p> <p>病院については、「住環境の整備」に属すると思うが、病院を造ることではなく、緊急時に相談できる病院体制が望まれているのだと思う。</p> <p>定住環境は、「住環境の整備」に属すると思うので、そこでの議論になる。</p>
稲村委員	<p>資料2 富津市外居住者アンケート報告書を見ると、うまく情報発信ができていないと思われるが、シティープロモーションの取組はどこに属するのか。</p>
事務局	<p>「全体を通した視点」に盛り込んでいるが、これは共通した課題として議論が必要である。基本的な方向案には落とし込んでいないが、基本目標案が定まった時点で議論いただき、後に位置付けを決定していくことになる。</p>
中澤委員	<p>市民委員会の議事録を拝見して、大変活発に議論されている。人口ビジョンの35千人について、各分科会で議論されているが、創生会議としては、人口ビジョンの35千人として議論していくのか。</p> <p>また、資料5 提案改善シート記載内容中間とりまとめに市民からの具体的な課題がまとめられており、議論のたたき台として活用するのが望ましい。</p>

<p>構想日本</p>	<p>富津市の人口は、社人研が2040年に約3万人と推計しているが、出生率の向上、ファミリー世帯の転入促進をすることで、35千人に減少幅を食い止めたいとしており、どのような政策を展開するのか議論がある。</p> <p>2040年までに出生率を2.1に上げるとしているが、アンケートでの希望出生率は1.83である。アンケートでの希望出生率を超えて上昇させることの必然性があるのかという議論。また、現状維持を前提とした上での検討をするべきとの議論もある。両論あるが、印象では減少したことを前提としたまちづくりを考えた方が良いのではとの意見が多いと感じる。</p>
<p>事務局</p>	<p>1万人減なのか、1万5千人減なのか。</p> <p>2040年に3万人と仮定すると、2060年頃には2万人を割り、2090年頃に1万人を割ることになる。永遠に減り続ける推計をイメージさせる説明が非常に難しい。</p> <p>人口が減ることを前提としてどのようなまちづくりをしていくのかがメインテーマであり、人口ビジョンの何が適正なのかイメージは人それぞれであることから、現在、議論をいただいているところである。</p>
<p>構想日本</p>	<p>人口ビジョンでは、条件設定することで35千人を維持できるとしているが、人口推計を6パターンのシミュレーションをしている。市民委員会では、6パターンのシミュレーションはあくまでも選択肢として、政策によっては人口が増加する可能性を前提として、総合戦略にて今後5年間何をするのか。人口を35千人にするのか、いくつかある選択肢の中から検討していくのか、表現の仕方だと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料1 中学校別人口推計の年齢階層別人口ピラミッドにあ</p>

	<p>るように、社人研推計では年齢が若くなるほど人口が少なくなっている。子を産む年齢になるにはその20から30年後になることから、社人研推計のまま3万人とすると、将来的に子どもを産む人の数が減少してしまい、手遅れになってしまう。今の時点で何かしら手を打って、若年層の確保に努めなくてはならない。</p>
<p>会長</p>	<p>基本的な方向案については、資料4のとおりでよろしいか。</p>
<p>委員</p>	<p>異議なし</p> <p>(休憩)</p>
<p>会長</p>	<p>4つの基本目標案に沿って、具体的な施策案について意見を聞きたい。</p> <p>まず、「子どもの笑顔があふれるまちへ」について意見を聞きたい。</p>
<p>平野委員</p>	<p>出会いの場の創出についてだが、40代50代で結婚していない人が多い。昔は農研等で出会い結婚したようだが、今は機会が無い。農業、漁業ともに未婚者が多く、誰かが出会いの場を作る必要があるのでは。</p> <p>結婚相談所だと構えてしまい行かないと思うので、もっと手軽に相談できるものがあると良いと思う。</p> <p>子育て支援制度の充実については、若い人が子育てに関して気軽に相談できれば良いと思うし、我々の世代の人が支援できる体制があればとも思う。</p> <p>私の家の嫁は君津の支援センターに行くが、新しい施設を建てずに公民館等を利用してやってみてはどうか。</p>

<p>滝田委員</p>	<p>出会いの場を創出するだけでは意味がないと思う。知り合いの結婚コンサルタントに話を伺ったが、街コン等出会いの場を創出し、個人にどれだけ自信をつけさせるかに尽きるとのこと。</p> <p>自分自身に自信を持っている人を増やし、富津に誇りを持つ人を増やすのが大事である。仕事の安定も自信につながるため、ここでの議論は、雇用の創出、地元への愛着・誇りの醸成に分かれてくると思う。</p> <p>「のびのび学ぶ教育環境の整備」については、富津市の強みは自然であり、それが教育整備の方向性になってくるのでは。例えば、富津市が効率を考えて子どもを富津中に集めるとなっても、他にはない田植えを通じた教育、バリ島との交流がある金谷小学校に自分の子どもを通わせたいと思っている。</p>
<p>西田委員</p>	<p>地元の人が市外から連れてくる、地元で出会う、市外の人が結婚して富津に来る、どれを考えるか。地域の愛着・誇りを醸成することで地元同士の婚姻は望めるのでは。市外から婚姻世帯を呼ぶには、住環境や雇用の創出を充実させないと難しいので、市外の人が納得するようなまちづくりが必要である。</p> <p>出会いの場も大事だが、市民の改善要望の高いところを整備し、現実的なアプローチを考える。</p> <p>「女性がくらしやすいまちづくりの推進」については、社内の富津育ちには愛着はあるが、20代30代は文化、スポーツ、学習欲を満たされていない。</p> <p>女性の欲を満たす施設、ファッション、スイーツなど、20代30代のコア世代、また主婦を含めた女性のための施設が必要であると思うが、全部ではなく、一部は他市に任せてもよいのではと思う。</p>

<p>櫛田委員</p>	<p>結婚の価値観が変化してきており、結婚しない選択肢もあり、時代背景を考えるべき。出会いの方法も SNS を使う等、地域の出会いは変わった。</p> <p>議題として富津の男、富津の女とはどんな人なのか。富津で育った子どもを他と比較できるイメージはあるのか。それは富津の PR になると思う。</p> <p>婚活塾の方との話の中で、個の強さ、男のたくましさ、リーダーシップが必要とのこと。富津に来ると男らしくなるというようなプロモーションはどうか。</p> <p>今の時代は仕事だけが人生ではないというイメージを持たせるのも必要。仕事をして、アフター5はイベントを企画し、他に子どもと触れ合う教育をやったり、様々な機会に足を運べるような文化が定着すれば、それが自然に出会いの場になる。</p>
<p>浅野委員</p>	<p>富津の男性、女性はどんな人なのか。私の職場にいないため、イメージが湧かない。そこで森田委員に伺いたい。</p>
<p>森田委員</p>	<p>私の農業法人は17名いるが、未婚者は1名だけである。</p> <p>少し前は農業従事者に好感を持ってもらえなかったが、今は好感を持ってもらえていると実感することが多い。農業は地元に着くので付いてくる女性が多いのだと思う。</p> <p>富津の人が農業・漁業をやっているというイメージになれば個人的には嬉しい。</p>
<p>浅野委員</p>	<p>市では結婚相談事業をやっているのか。</p>
<p>会長</p>	<p>年に1、2組の相談者がいる程度と思われるが。</p>
<p>事務局</p>	<p>登録件数も減少しており、価値観の多様化によるものだと思う。</p>

	う。
会長	昔は保険外交員など引き合わせる人がいたが、今は他人に無関心であり、そのような人が少なくなった。
事務局	人口を増やすために結婚するのではないが、先細になると市は存続するが、村は消滅してしまう恐れがある。
会長	漁業はどうか。
小泉委員	20代は結婚しているが、40代50代は未婚者が多い。20代の人結婚している理由は、今の若い人が活発だから。若い人の結婚相談ではなく、年配者の未婚者が話し相手なってもらえる女性を見つけられるような取組を市にお願いしたい。
櫛田委員	世代によって婚活に違いが出てくる。若い人は出会いが多く、危機感が無い。富津なりの婚活というものを模索する必要がある。
滝田委員	どこに即効性を利かす施策にするか。 個の力がある人は、市外から相手を引っ張って来れる。どこに焦点を当てるかだが、結婚して子どもを産んでもらうための出会いを創出することを念頭に置き、施策を展開することだと思う。
会長	人口を維持するための議論でよろしいのか。
事務局	社会を維持するための議論である。 人口を増やすだけでなく幸せ感、満足度、自信感も大切であ

<p>滝田委員</p>	<p>ると考える。地域経済という観点から、人口は希望を叶えるために維持することが必要である。</p> <p>人口ピラミッドを少しでも元に戻すということであれば、50代、60代の方に出会いの場を提供し恋ができるまちづくりをするのはどうかと思う。それよりも若者が自信を持って結婚してくれるのかだと思う。</p>
<p>早見委員</p>	<p>事例紹介になるが、君津市の商工会議所主催のきみコンでは、男96人、女94人の参加者があった。具体的な成果まではわからないが、君津市民に限定しておらず市内外から多くの人が集まり、大盛況であった。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>方向性を決めていくことが大事。事業者は経営理念を決めるものだが、市としての理念が必要なのでは。根幹が定まっていないと、施策の対象も定まらない。</p> <p>結婚の問題で言えば、富津の男性をライフスタイルなどでイメージできると良いと思う。</p> <p>教育では、自然体験、歴史遺産を生かすべき。金谷小は37人しか生徒がいらないが、少人数であるため先生の目が行き届き、且つ、様々な体験をすることができる、都会に住む母親たちから羨ましがられている。</p> <p>地元商店街の活性化が必要だが、金谷に来たボランティアの方たちには地元の店を使うよう働きかけをしている。地域でお金を使えば地域に喜ばれるという価値観を共有することによって地域が豊かになる。富津市はそのようなコミュニティを大切にしているということを訴えることによって、共感を持ってくれるのでは。ターゲットを明確にすることによって、より地域に来てくれるようになるのではと思う。</p>

<p>櫛田委員</p>	<p>1つのことで複数の目的を達成できたらと考える。</p> <p>地域のイベントを企画運営することで、それが結婚出合いの場になり、地域イベントと婚活を併せた交流があっても良い。</p>
<p>平野委員</p>	<p>資料4を見て思うことは、大きなテーマがあって、そこにぶら下がる目標案があるとイメージしやすい。</p> <p>地域の強みを生かした教育活動は取り入れるべき。元学校教諭として思うことは、地域の特性を生かした体験というのは子どもの骨格を作る。体験することで生きる力が身に付く。また、地域の体験プログラムの中に地域の人材を活用し、巻き込んでいくことも必要である。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>富津市独自のプログラムに参加させたことについて、母親を評価する制度があるといい。それが子育てしやすい環境にもつながるのでは。都会でできないことを富津ならできるというイメージ戦略を行うべきである。母親も一緒に褒めるシステムを、学校と市民が協力して作ると良いのではないか。これは、基本的な方向案「のびのび学ぶ教育環境」に組み込めるのではと思った。</p>
<p>森田委員</p>	<p>稲刈り体験、職場体験等に協力しているが、学校側のコマ割が難しいとのことなので、ここで決めたとしても実現できるかが心配である。</p>
<p>小泉委員</p>	<p>市のバックアップが必要。以前、海苔の摘み取り体験を子どもたちに対してやっていた。評判も良かったが、人材の問題で、組合だけの対応では難しい状況になった。</p> <p>また、地元の米と海苔を使っておにぎりにして給食で食べたりしている。</p>

滝田委員	<p>教育機関の特性なのかもしれないが、PRになる体験の写真をメディアに掲載する際に、顔が写っていない写真でなくてはならないと言われ、果たしてそれがメディアに対するPRになるのか懸念がある。</p> <p>保護者の心理的な土壌を育てる必要があり、我々は素晴らしい教育をしているという誇りを持ち、それを発信できるようになればと思う。</p>
櫛田委員	<p>農業を習い事として捉えた概念はないと思うが、どんなことを市でバックアップしたら可能になるか。</p>
森田委員	<p>農業には「習うより慣れろ」ということがあり、実際に種をまいた方が勉強になる。</p>
櫛田委員	<p>東京の子どもたちからすると、システムありきと知っている。富津市で習い事のようなことで実施できれば良いと思う。実現は難しくないという認識で良いか。</p>
森田委員	<p>芽を出すのは簡単でそこから試行錯誤して作物を育てながら学んでいく。</p>
西田委員	<p>体験は人と人との出会い、コミュニティがあり、体験を通して共感し、何かを分かち合うことができる。シティープロモーションとしても捉えることができる。</p> <p>婚活の場にしても、イベント型婚活により活性化につながる。</p> <p>外部から人を呼ぶには、箱モノを作るのではなく、コーディネーターが必要なのでは。</p> <p>また、今ある観光資源等とその素材を提供してくれる人、教</p>

	<p>えることのできる能力のある人等をリストアップして、活用できると魅力の発信にもつながるのでは。</p> <p>金谷小学校は魅力があると思うので、新たな有名校を誘致するより、魅力ある所をPRしたら良いのではと思う。</p> <p>新富にあるうちの会社には社員が約1,000人いるが、富津市民はあまりいない。教育の環境が重要であるので、もっと金谷等市内の良い教育環境を発信すべき。</p> <p>最終ゴールは結婚ではない世代もあると思う。若い世代は結婚、出産のための施策で出生率を上げる。40代、50代には転出抑制を講じる。もう少し上の独身世代には、定住促進策をなど、世代別のニーズに合わせた出会いの場を創出したらどうか。</p> <p>(休憩)</p>
会長	<p>基本目標案「くらしやすく、移住しやすい環境づくり」の議論に入る。</p>
稲村委員	<p>空き家利用の促進について、現在は空き家の情報が手に入りにくい状況であるが、これは民間でもできる取組なのでは。</p> <p>出会いの場の創出、空き家利用の促進、環境美化、地域行事やイベントを通じた地域の活性化、高齢者が地域で元気に暮らすなどを、コーディネーターが1つにまとめ具体的な案を出して検討すれば、何かできるのでは。</p> <p>次回会議までに具体的なものを検討したい。</p>
浅野委員	<p>地元の不動産業者が空き家の情報を持っており、市は宅建協会と連携していると思うが、うまく機能していないように思える。</p>

<p>早見委員</p>	<p>市民委員会のアンケートにあるように、空き家バンクを作るとわかりやすく、それをホームページ上に掲載してPRするなども良いと思う。</p> <p>地元の不動産業者から空き家情報を収集し提供することは可能であるし、また、地元業者は協力を惜しまない。</p> <p>君津市での空き家対策は、シルバー人材センターに業務委託している。富津市でも、宅建協会のような団体と連携すれば、同じような取組ができるのでは。早めに手を打たないと、活用方法が見出せなくなる。</p> <p>また、富津市の新築分譲について、他の地域と比較すると少々販売に苦慮した。新築を求める方に対して、他市と同じように情報提供しているが、富津市内の勤務地に近い物件を紹介しても君津市の物件を求めるケースがある。定住を考えているのではなく、数十年後の次のステージを考え、住宅を購入している。転居する際に今居住している住宅の手放しやすさを考慮して、富津ではなく君津・木更津を選んでいるケースもある。新築というよりかは、安価な空き家を活用して転入策を検討したら良いと思う。</p>
<p>浅野委員</p>	<p>和歌山県北山村では人口が増加している状況だが、ここでは空き家の改修、新築の際に村が助成している。</p> <p>前回の会議の際に、銀行でも空き家対策を検討していると述べたが、早速商品化になり、極めて丁寧なファイナンスができるような仕組みができた。この商品をPRすることも、空き家の活用につながると考えている。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>金谷の場合、空き家はあるが倉庫になってしまっている。借家にするには、片付け等が伴うため、負担になっている。それ</p>

	<p>をクリアにできるようなサービスを提供できれば、物件の有効活用が期待できるのでは。</p> <p>空き家情報を提供するにしても、別荘として利用してもらうのではなく、定住者に対するものにしてもらいたい。</p> <p>また、地域によっては、移住者を面接しているケースもある。誰でもよいというわけではないと思う。</p>
中澤委員	<p>八幡や笹毛に高額所得者の方が別荘を有している。</p> <p>市としては、そのような方を呼び込みたいと思われるが。</p>
鈴木委員	<p>それは地域差があると思う。</p>
櫛田委員	<p>空き家の活用方法をデータベース化できたらと思っている。空き家マップは必要だと思うが、すぐに利用できるのか否か、定住用の空き家、別荘用の空き家などの分類も伴ってくる。これは個人の取組では難しく、不動産業者と連携する必要がある。</p> <p>また、空き家の活用方法を募集するのも良いと思う。例えば、商店街の活性化で言えば、シャッター街を期間限定で、商店を商うような募集をするなど、きっかけづくりには良いと思う。その時に滞在する場所を空き家にするなど、利用が図れる。</p>
構想日本	<p>他の自治体では、初めにニーズ調査を行い、空き家を保育園の一時預かり場所に行っているケースがある。空いているから何かに使うのではなく、必然性を検討している。</p> <p>市民委員会の中で、富津市の特徴として地域のつながりの強さを感じており、新旧住民ともに、仲良くしたいと思っている。</p> <p>元区長が言っていたことだが、別荘に時々来ている方も同じ住民であるから、区費を徴収しに行ったとのことだが、そこで接</p>

事務局	<p>点を作ることが地域のつながりの強さに通じ、ひいては移住者を受け入れる環境の良さにつながってくるのではと思う。</p> <p>空き家について、重要なこととしてまずは所有者の意向を確認すべきである。鈴木委員が述べたように、空き家を倉庫として利用しているのは、所有者の意向である。</p> <p>空き家対策特別措置法は、降雪がある地域で周囲の住民に迷惑が掛かるから強制的に撤去するためにできたツールである。空き家が日本全国で一番多いのは東京都だが、取組としては特にない。不動産業者が賃借人とリンクさせているだけであって、100万戸以上の市場を循環させて、需要と供給のバランスを保っている。</p> <p>不動産業者がない地域では、市の何らかの介入を要するが、富津市には、しっかりした業者がある。富津市の地価は、君津や木更津の半額程度であるので、それをPRしてもよいのでは。</p>
会長	<p>市は物件を斡旋するのではなく、ホームページなどで情報提供するなど仕組みづくりが必要である。</p> <p>需要があっても供給がなくてはならない。</p>
中澤委員	<p>地元商店街の活性化について、現在、機能している商店街として、市が認識しているのはどこか。</p>
事務局	<p>富津岬、青堀駅周辺について、以前は商店街として機能していた。</p>
櫛田委員	<p>議論として、その2つをメインに検討するのか、全般的にイメージしてなのか。</p>

事務局	皆さんの意見によってである。
稲村委員	青堀の商店街は点在しており、かつては90軒あった時代があったが、現在は二十数軒である。商店街の活性化はかなり困難であると認識しており、どのような方策を講じればよいのかわからない状況であるため、消費者から意見を伺いたい。
櫛田委員	商店街を復活させるのではなく、今ある空き店舗をどのようにリノベーションして、何に使っていくのか提案が必要。シャッター街をどのように生まれ変わらせたなら市全体に波及するのかを考えたい。
中澤委員	商店街ではないが、佐貫には単独でカフェがあり都会から足を運んでくるお客がいる。集客力があり地域イメージに貢献しているお店を地域として支える仕組みがあると良いと思う。
早見委員	<p>居住する近所に「大型スーパー等があると良い」など転入希望者の意見と地元商店街の活性化について、うまくリンクしていない。</p> <p>子育て、出産を迎えるに方に対しての環境整備を視野に入れ、行政から何か魅力的な施策を打ち出せれば、基本目標にある「子どもの笑顔があふれるまちへ」につながると思う。</p>
西田委員	地元商店街の活性化について、転入者の立場から地元の商店がどこにあるか、開いているのかどうかもわからない。何を売っていて、営業時間や外観の写真があるマップがあるといい。夜も暗いし、お金を使った外観になっている店も多いわけではないので素通りしてしまう。ネットのプロに頼めばそんなに経費がかからずできるのではないか。そういったものがあれば行

くきっかけになる。

商店街との認識は無い。個人の商店が点在している。昔からの商店街が歯抜けになってきている。

商店街の活性化について、以前の会議では、もう一回火をつけて活性化、復活させようというよりは、地産地消や現地でお金を落としてもらおうということだったかと思う。それであれば、特産品の販売店や立地を生かしたカフェのような商売に特化するという考えもある。

生活対応ということであれば、インフラ状態や高齢化を考えると点在した商店が良いものであっても住民が使いきれない。生活対応は大型商業施設にある程度依存しつつ、そこへの出展やバスを出したり宅配をするなどの住み分けを考える必要がある。

商店街・エリアを創るというよりも個々の商店の活用方法を考えるべき。

住環境について、一般的な新築物件であれば、インフラ面で富津は立地で負けてしまう。山方面なら古民家風、海沿いならリゾート風など富津らしい分譲地をつくって魅力を出していくのもいいのでは。会社内の人の住み方を見ると、市の境界近くになれば君津市へ行ってしまう。しかし、富津の良さを感じあえて竹岡など南の方へ住んでいる人もいる。地価が安いなら広い家、庭を持ちたい、景色を手に入れたい、上物にお金をかけたなどと思うところに着目し、富津ならではの付加価値、特徴をつけるのが新築に関してはいいのでは。

環境美化について、きれいに整備されたまちで子どもが安心して暮らせるというのも目的の一つだと思うが、イメージ作りという観点で朽ちた看板、荒れ果てた道端など交通量を調査し、幹線道路だけでも公的なお金をつけられないものか。個人の努力で草取りは限界がある。キーになる駅前、交差点、幹線

	<p>道路は大事だと最近感じている。公園のベンチ、ゴミ箱、トイレ、照明などについてもある程度行政が整備し、その後の手入りは仕組みづくりは必要だが、ボランティアや自治会に委ねるといいうのもできるのでは。</p>
<p>会長</p>	<p>時間も限られているので基本目標案の3つ目と4つ目は併せて意見をいただきたい。</p>
<p>浅野委員</p>	<p>雇用の創出について、富津に工場を作りたいが、調整区域が多くなかなか建てられない。かといって企業庁の用地は高く、面積も広い。企業が進出できるところが少ないといった話が多くあると聞いている。市外や県外の方はそう感じている。</p> <p>富津の強みは観光、農業であり、PRをどんどんしていく必要がある。はかりめ井や海堡井などを対外的にアピールしていくべき。エリアの約20店舗がそれぞれキャンペーンを行うのもいいが、例えばそういった店舗が一堂に会して共同出展などすることなどはできないか。</p> <p>地方創生の鍵は道の駅だと考える。まちの特産品や観光資源を有効活用して人を地域に呼びこむことが必要。当然雇用も生まれるし、農産物などを共同出展できる場を例えば高速インターチェンジの近くに作ればよい。</p> <p>イメージキャラクターふつつんの改革も必要ではないか。他のキャラクターのように元気よく動けるようにしてみるのもいいのではないか。</p> <p>他にもビッグデータの活用により情報収集して、うまく活用していかなければならない。</p>
<p>岩沢副会長</p>	<p>観光の振興について、もみじロードや鋸山のウォーキング、潮干狩り、二間塚古墳の散策などを毎年行っているが、例えば</p>

	<p>三船山は君津からは道がいいが富津の道は悪い、二間塚は史跡としてはバスで回ってきてもトイレが無かったりするので、少し整備するだけでもっといい観光資源となる。</p> <p>学校の授業や遠足でも、歴史を学び始めたら古墳に行ってみたり、体験学習を行うなどポイントで取り入れていけば小さい頃から富津市に対する愛着も沸いてくるのではないかと。また、市内でも他の地区でこんなものがあるというのがわかってくるので、市内での交流としてもいいのではないかと。</p> <p>外から来る人への観光資源の活用と愛着を持つための観光資源の活用ができる。</p>
平野委員	<p>観光、地場産業について、最近近所で大型バスをよく見かけ、1台あたり30～40人ほどで落花生の収穫をしたりしている。さつまいもやブルーベリー収穫の例もある。空いている畑は多くあるので活かしていく方法はあるのでは。</p>
鈴木委員	<p>体験型のものについて、館山市や南房総市は10年以上前から力を入れている。観光バスについては、運転手一人あたりの距離制限が問題となっているが、房総にとってはむしろ追い風である。遊休地などで季節の野菜や特産物を使った体験型のものを取り組めれば、チャンスは大いにある。漁業についても地域のイメージとしてアピールすれば体験型のツアーなどまだまだ掘り起こせる。</p>
会長	<p>先日バリ島との交流の取り組みがあったが、海外の人というのはどうか。</p>
鈴木委員	<p>海外の人にはイチゴ狩りなど果物の人気がある。千葉県はまだ遅れているが、例えば山梨やイチゴであれば栃木が有名。日</p>

<p>森田委員</p>	<p>本の果物の品質は高く海外でも人気。外国人観光客も増えていくと思うので、需要は発掘できる。</p> <p>私のところでもそうだが、市の農業委員会へ聞くと富津で農業をやりたいという問い合わせが多くある。しかし、就農の支援制度や農業へのハードルが高くなかなか就農まで繋げられない。</p> <p>前回の会議で下限面積を下げて就農しやすくすると意見を出したが、先日農林水産省で話をしてきたところ、就農支援特区にして新規就農者をどんどん増やせれば面白いとの話になった。新潟で就農支援特区を創った自治体では新規就農者が7件だったところが、1,000件になったという事例もある。富津市は場所も良いし、耕作放棄地も多いので就農支援で人口増に繋がるのではないか。</p> <p>国でも農業に力を入れてきており、富津市としてはそこまでお金はかからないと思うので、制度を作って総合戦略に入れ込んでアピールしていくのも有効。</p> <p>耕作放棄地が減れば環境美化にも繋がり景色も良くなる。長い目で見れば富津市で農業をやってもらえれば何十年も安泰。</p> <p>下限面積の例など各自治体が決められるようになってきているので是非やっていくべき。</p>
<p>小泉委員</p>	<p>一次産業に携わる人も少なくなってきており、また自然相手であるので、理想ではあるが一次産業の一部公務員化を国の方で考えてもらいたい。</p> <p>私たちの方では海苔のオーナーズ制度を検討し、三重県まで視察をしてきた。漁業についても観光面も一部取り入れていかなければならない。</p> <p>海苔に限らずいろいろな地元の産物を販売する場への行政</p>

<p>櫛田委員</p>	<p>のバックアップをしていただきたい。</p> <p>地域行事、イベントについて、個人では難しいと思ったことの一つに富津コンベンションをやるべき。わかりやすい事例だとアップルという会社が年に2回キーノートというミーティングを開き、ユーザー、株主、メディアを集めて過去半年間の業績報告、新製品の発表などを行い、アップルが何をしてきたのか、これから何をしようとしているかなどを発表している。</p> <p>以前「はかりめ井」の発表会に参加したが、閉じた空間でやっても伝わらない。公民館などに数百人集めて、これからの富津はこれで攻めるというものを各分野でプレゼンテーションを出し合い、メディアへの発表、市民、市外の人を呼び込む ALL 富津でのイベントを年1、2回開けないか。そこに向けて次は何を発表しようとか、商品開発の動機付けにもなる。横浜などの都市ではできないが富津ならできるのではないか。富津市内に点では素晴らしいポイントはあるが、ALL 富津でというものはまだない。市や商工会、観光協会などのバックアップがあるそういった企画の中で市民向け、県外向け、英語同時通訳して海外向けに発信できる仕組みを日本のどこよりも先につくりたい。1年通して市がどのような取り組みをしているのか情報発信が行き届かない部分がある中、市民が楽しみにしているイベントの中で発表していくことで展開できるのではないか。埋もれていくものを発表できるイベントができると、全てのコンテンツが活かされ、日本中から集まるようなものになれば富津が売れるのではないか。</p>
<p>中澤委員</p>	<p>富津市でも商工祭が年1回行われているが、これを完成系に近づける良いアイデアだと感じた。</p> <p>転入者受け入れの環境整備について、議会報告会が富津市民</p>

	<p>会館ホール、富津公民館ホール、富津中央公民館ホールの3会場で行われるが、この会場を並べられたときにどこが富津市のコアの会場かがわからない。富津市に越してきた者からすると名称のつけ方が公平を意識するあまりにどこのどういった施設かわかりにくい。施設や広場、道路の名称についても対外的なアピールを意識したネーミングをしていくことが市のイメージアップにつながるのではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>まだまだ意見を頂戴したいが、時間となったので本日の会議は以上で終了としたい。事務局には本日の意見のほか、以前出た意見についてもとりまとめ願いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>第5回「富津市創生会議」の開催について 11月18日（水）14時から502会議室にて開催する。</p> <p>（終了時刻17：45）</p>

以上